



保険監督者国際機構 (IAIS)

「システム上重要なグローバルな保険会社に適用する 上乗せ資本 (HLA) 要件」に関するコンサルテーションの概要

一般社団法人 日本損害保険協会 国際企画部
(2015年8月作成)

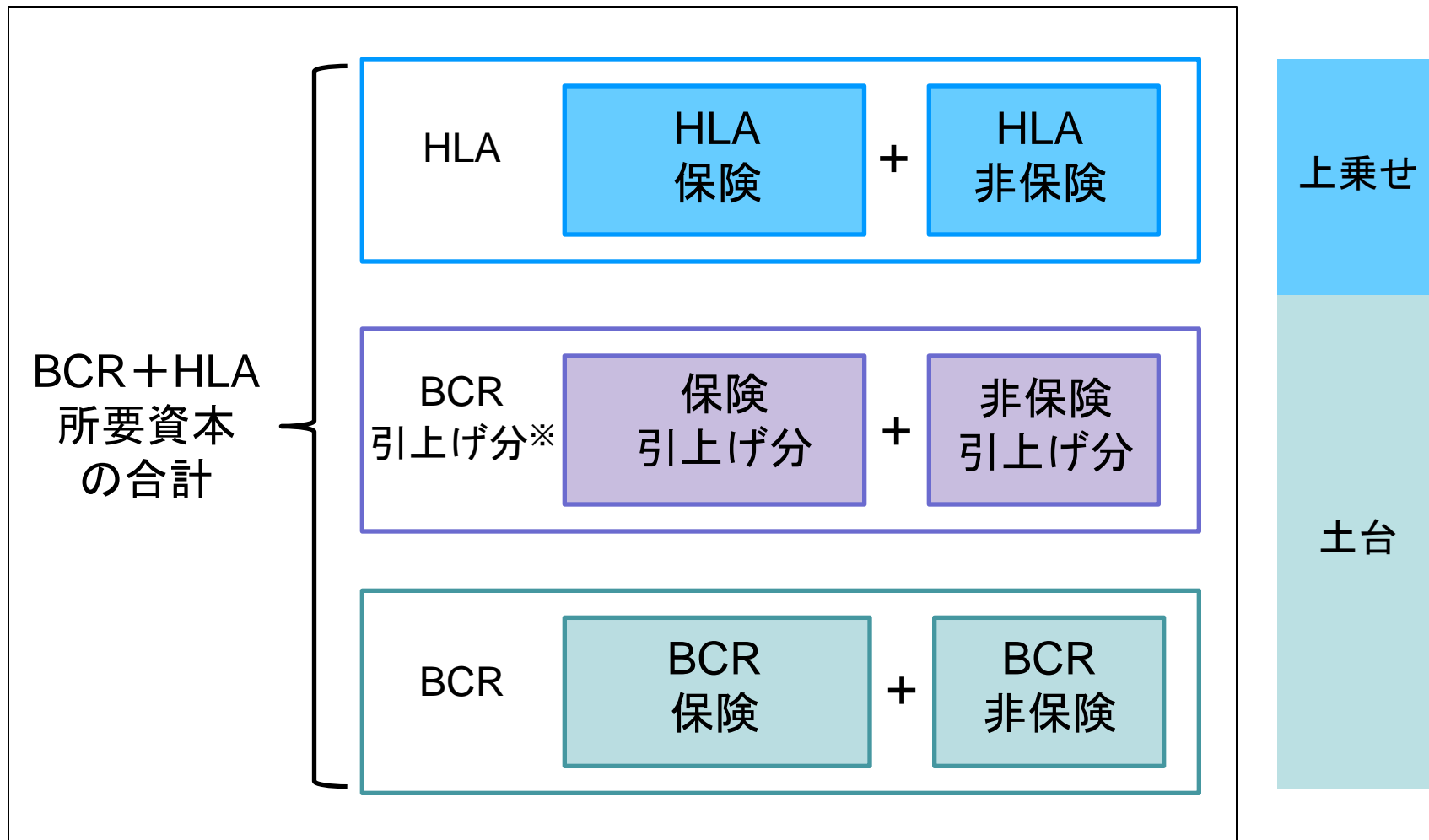
HLA要件に関する開発の経緯・予定 (参照:2015年6月HLAコンサルテーション文書)

- グローバルな金融危機の後、金融安定理事会 (Financial Stability Board: FSB) および G20は、システム上重要なグローバルな金融機関 (Global Systemically Important Financial Institutions: G-SIFIs) の特定や、金融システムに対するモラルハザードおよびリスクの抑制に関する枠組みの策定に向けた作業を開始した。
- この広範な取り組みの一環として、保険監督者国際機構 (International Association of Insurance Supervisors: IAIS) は2013年7月に、システム上重要なグローバルな保険会社 (Global Systemically Important Insurers: G-SIIs) に対する適用規制を公表した。適用規制の一つとして、G-SIIsの経営難・破たんの確率および金融システムへの悪影響を抑制することを主目的とした上乗せ資本 (Higher Loss Absorbency: HLA) 要件が掲げられている。なお、HLA要件の土台となるベーシック資本要件 (Basic Capital Requirement: BCR) は、2014年11月にG20により承認された。
- HLA要件は、本コンサルテーションの内容を受けてIAISにより最終案がまとめられ、2015年11月のG20による承認を目指している。G-SIIsに対するHLA要件の適用開始時期は2019年1月が予定されている。
- IAISは別途、国際的に活動する保険グループ (Internationally Active Insurance Groups: IAIGs) に対する国際保険資本基準 (Insurance Capital Standard: ICS) の開発を進めており、2020年より適用が開始される予定である。その際、HLA要件の土台はBCRからICSに置き換わることになり、その上乗せであるHLA要件に関しても改めて見直しが行われる予定である。

HLA要件に関する提案の概要 (参照:2015年6月HLAコンサルテーション文書)

- HLAは、BCRと同様に非保険子会社を含む全てのグループ事業に適用される。そのため、HLAの開発においては、保険事業(非伝統的保険事業を含む)と非保険事業を分けることで非保険業界に適用される既存の規制要件(例えば、関連銀行規制)を反映させる。なお、銀行規制の対象となる活動に対するHLA要件は、関連銀行規制の要件を超えない範囲で設定される。
- 将来的にHLA要件の土台がBCRからICSに置き換わることから、現時点においてBCRをICSの水準に近付けるためにBCR引上げ分(現時点ではBCRの33%に相当)を導入し、BCRおよびBCR引上げ分の合計に対してHLAを上乗せする。なお、HLAは参照する銀行規制との関係を考慮してBCRおよびBCR引上げ分の合計の20%を超えない範囲(G-SIIs平均)で設定される。
- BCR+HLA所要資本の合計(次頁参照)は、保険事業および非保険事業のそれぞれについて、土台であるBCRおよびBCR引上げ分と、上乗せ分であるHLAの三つの要素を合計した額となる。
- HLAの所要資本を支える資本リソースは最も高い質の資本でなければならない。

HLA要件に関する提案の概要 (参照:2015年6月HLAコンサルテーション文書)



※将来的にHLA要件の土台がBCRからICSに置き換わることから、現時点においてBCRをICSの水準に近付けるためにBCR引上げ分(BCRの33%に相当)を導入する。

HLA要件に関する提案の概要 (参照:2015年6月HLAコンサルテーション文書)

- 本コンサルテーションで提案されたHLAは、「G-SIIの金融システム上の重要性に応じて設定される係数」と「非伝統的保険事業(NT)と非保険事業(NI)に重きを置く程度を考慮したエクスポージャー」を用いた係数ベース手法を採用している。本コンサルテーションでは、特に、以下の三つの事項が論点となっている。
 - 区分化(G-SIIに適用する係数の決定): G-SII選定基準による評価結果に基づき区分を設定し、G-SIIを割り振り、金融システム上の重要性に応じて係数を設定する。
 - 算式の選択(エクスポージャーの決定): システミック・リスク※の主因とされる非伝統的保険事業(NT)および非保険事業(NI)に重きを置く程度を選択する。
 - 結果の較正(各係数の大きさの決定): G-SIIsの多様な事業モデルに伴う結果のばらつきを認識したうえで、平均的にあるいは個別的に、HLAがG-SIIに与える影響の程度を選択する。
- 上記事項は、HLAにおいて重要と考えられる目的(経営難・破たんの確率および金融システムへの悪影響を抑制すること等)や、期待されるインセンティブ(HLA要件がシステミック・リスクの削除を促進する制度となること等)を踏まえ、リスク感応度、頑強性、簡便性のバランスを考慮した上で決定される。

※システミック・リスクは以下のように定義されている。

「システミック・リスクは金融サービスが機能不全に陥るリスクであり、金融システム全体または一部の障害により生じ、実体経済に深刻なマイナスの結果をもたらさうる。」

HLA原則 (参照:2015年6月HLAコンサルテーション文書 付属書C)

- HLA要件の開発にあたって以下の10原則が2014年9月にIAISより示されている。
 - ① 比較可能性: HLAの結果は、管轄区域間で比較可能でなければならない。
 - ② G-SIIのリスク: HLAは、G-SIIの状態を評価する所定のリスクドライバーを反映しなければならない。
 - ③ コストの内在化: G-SIIの破綻や経営難は、金融システムおよび経済全体にコストをもたらす可能性がある。HLAにより、外部コストの一部をG-SIIsに内在化させなければならない。
 - ④ 復元力: HLAは、様々な経済状況下において機能し、有効なものでなければならない。
 - ⑤ ゴーイング・コンサーン: HLAとその土台は、G-SIIsが「ゴーイング・コンサーン」であることを前提とする。
 - ⑥ 資本の質: HLAの所要資本は、「最も高い質の資本」によって満たされなければならない。
 - ⑦ 実用性: HLAの設計は、粒度と簡便性との適切なバランスをとることで、実用的かつ実務的なものとする必要がある。
 - ⑧ 整合性: HLAの構造は、HLAがカバーする必要のある保険・非保険事業体の範囲、および時間の経過に対して整合性があり、適用可能なものでなければならない。
 - ⑨ 透明性: HLAの透明性の水準は、特に最終的な結果および公表データの使用に関して、最適化されなければならない。
 - ⑩ 改善: HLAは、フィールドテストの過程でIAISが得た経験やデータを踏まえ、改善される。

2015年6月コンサルテーションに対する損保協会意見

- 損保協会が提出した主な意見は以下のとおり。
 - HLA要件の前提であるG-SII選定基準やNTNIの定義は見直しが予定されているため、これらが明確になった段階で改めてHLA要件に係るパブリックコメントを実施すべきである。
 - 区分化の基準となるG-SII選定基準の総合スコアに関する情報不足や構造上の問題から、区分設定の妥当性について判断できる状況にはなく、これらの問題が解消されるまで区分化は行うべきではない。
 - HLA要件がシステミック・リスクを削減するインセンティブを有効に機能させるためには、スケール係数を定期的に見直すべきではない。定期的に見直す場合、G-SIIs全体がシステミック・リスクの主因とされるNTNIの相対量を減らしても、見直しの時点でHLAの水準が導入当時の水準に引き上げられてしまう。
 - 係数ガンマ(0から1の間で設定されるNTNIエクスポージャーへの重み付け)の水準は、システミック・リスクの主因がNTNIであること等に鑑みて、可能な限り1に近いものとすべきである。

* 損保協会が提出した意見(和英)

<http://www.sonpo.or.jp/efforts/international/regulations/international/pdf/0010.pdf>